

ボラえもん通信

♪平成21年度 総まとめ号♪ 平成22年4月発行

こんにちは！みなさん、新年度いかがお過ごしですか？新しい環境になった人もならない人も新年度を忙しく過ごしていると思います。21年度ボラえもん通信出せなくて本当ごめんなさい。赤城ボラの活動報告ができずに一年すぎてしまいました。本当に申し訳ないです。

今さらながらになってしまいました。昨年度の主催事業を振り返って、22年度に向けて気持ちを切りかえ、頑張っていきたいと思います。

～主催事業ふりかえり～

「平成21年度 ボランティアスタートアップセミナーin あかぎ」

平成21年5月16日から17日の2日間に「ボランティアスタートアップセミナーin あかぎ～ボランティア活動を通じて、新しい自分を発見してみませんか～」が行われました。

ボランティアスタートアップセミナーは、ボランティア活動に関心を持つ社会人・学生・高校生を対象に行われ、ボランティアのはじめの一步を踏み出すための知識・技能・考え方を講義・体験形式で学ぶことが目的でした。高校生が多数を占めており、ボランティア活動への興味・関心の高さがうかがえました。群馬社会福祉大学教授の足立勤一氏の講義、日本赤十字社群馬県支部職員の横坂留美氏、井野里映氏を迎え「救命救急法」の実習、赤城法人ボランティアによる「アイスブレイク」「野外炊飯実習」「講義・青少年福祉ってなに？」「講義・交流の家ボランティア紹介」といった内容で行われ、参加者は、初めての体験に目を輝かせ取り組んでいる姿が印象的でした。

赤城法人ボランティアによる講義では、参加者自身が「事業の計画を立ててみよう」という事で、各グループで何を目的にするか、何をするか、何を感してもらいたいか、と白熱した議論が行われ、最後には全参加者で議論されたことを共有し、それぞれの事業に感想や疑問点などを話し合いをしました。どのグループの事業も夢があり「いつか実現させてみたい！」といった声まで聞こえ、特に、印象的だったのは、グループの構成メンバーの年齢によって内容が異なっている点でした。

今回のセミナーは昨年度登録された言わば「1年生法人ボランティア」が中心となって行いました。参加者と同じように、多くのことを学び、再確認をする場にもなりました。私が学んだことは「気配りの大切さ」。自ら発信する場に立つことで、今まで受け身だけであったのに対し、相手がいることを認識することができました。

高校生や学生といった若い力の原点となるこのセミナーは大変有意義であり、初めの一步を踏み出した仲間たちの活躍が楽しみです。また、初めの一步を仲間たちと共に踏み出せる場は大切であり、今後も続けていくことが重要であると感じました。

赤城法人ボランティア 平井 翔太

「H21年度 ユースパートナーキャンプを終えて」

これまで名前を変えながらも、ボランティアの想いを詰め込んできたユースパートナーキャンプ。今振り返ると、今回は、その大きな分岐点ともなる大事なキャンプだったように思えます。

今年度から赤城を離れ、ボランティアが「ユースパートナーアソシエーション」を立ち上げ、「子どもゆめ基金」を資金源として、自分たちで活動したユースパートナーキャンプ。これまで参加して下さった本人やファミリーからの想い、スタッフの想い、そして、実行委員の想いをのせ、新たな一步を踏み出すために取り

組んできました。

「水」をテーマに行った今回のキャンプ。傘作りや水鉄砲作り、流しそうめんなど、とことんこだわったコースで遊ぶ参加者、スタッフからは、見ている側もニコリしてしまうほどの「いい笑顔」を見ることができました。また全員で作った夕食作りでは、食事を通して、本人間、家族間、スタッフ間がより親密に、スタッフが作り上げたキャンプファイヤーでは、キャンプにより一体感を持たせてくれました。最後に参加者からいただいた「来年もお願いね。」という一言は、実行委員をして、何よりの宝物となりました。

今回のキャンプは、何をやるにも自分たちで行動しなければなりません。その点に関して、キャンプ前日ギリギリまで裏方で動いてくれたぬでちゃん、お手伝いいただいた石原さんに心より感謝したいと思います。また、キャンプを作り上げていく上で、ともに頭を悩ませながら取り組んできた実行委員のメンバー、スタッフの仲間があってこそ、参加者が「また来たい」と言ってくれるまでのものとなったと感じます。今回のキャンプを通して、ともに意識を持ち続けている仲間の大切さをより実感したキャンプとなりました。次年度も、できる限りサポートしていきたいと思います。

赤城法人ボランティア パッション・高橋野人

「平成21年度 青少年自立支援者のための研究交流フォーラム」

平成21年12月4日から6日にかけて、青少年の自立支援者及び自立支援に興味を持つ人を対象にしたフォーラムが開催されました。

事例発表や協議による情報交換・提供を通して参加者相互の連携や支援活動の充実が、開催の目的であり、参加者は3日間に渡り、自立支援について様々な視点・分野から学びました。

同フォーラムは、大きく交流分科会と体験分科会、振り返りの3つから成り立ち、参加者は、各分科会ともに5～6種類のテーマの中から、自分の専門、あるいは興味に応じ選択し、協議や体験に取り組みました。交流分科会では、シンポジストの事例紹介等を題材に、コーディネーターを中心に考えや情報の交換を行いました。体験分科会では、講師を中心に自立支援に関わる体験的な活動を実践してみたり、施設の見学を行ったりしました。両分科会後には、振り返りとして、各分科会の参加者同士で感想等を共有し、最後には全参加者で各分科会の様子や内容、感想等を発表し合い、共有しました。

このフォーラムを通して、参加者がそれぞれの分野において青少年の自立支援のために真剣に取り組んでいることが伝わりました。しかし、それと同時に、どの参加者もその様子から、困難や課題、悩み、不安を抱えていることが分かりました。参加者は分科会の合間、さらには夜の時間までをも使い、互いに悩みや不安を共有し、励まし合っていました。同じ目標に向かって、しかし、違った角度から取り組む同業者同士の交流は、それぞれが再び自分のフィールドに戻って奮闘するための活力を再チャージする上で大変な効果があったようです。また、参加者間で今後の連携の足がかりを掴んだ様子でした。

自立支援という課題に対する解決方法は一問一答式に見つけられるものではないが、確実に現代、解決のヒントが求められる課題の一つだと思います。そんな難しい課題に向かって奮闘する参加者同士が情報を交換し合い、相互の絆を築くことのできたこのフォーラムは、大変有意義であったとともに、今後も続いていくことが求められる大切な場であったと感じられました。

赤城法人ボランティア 和田 圭輔

～～～赤城ボランティア通信 平成21年度 総まとめ号～～～

Special thanks to→→翔ちゃん、パッション、わだけ